

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 第2回社会教育委員会議
開 催 日 時	令和6年10月22日(火) 午後 7時00分から 午後 9時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所 3階304・305会議室
出席委員(者)氏名	峯健二委員、西澤利子委員、郭育子委員、福田稔之委員、 和田津智郎委員、強矢奈保子委員、石井亮英委員、 能登克己委員、高田明充委員、富田泰行委員、渡邊勝巳委員
欠席委員(者)氏名	土倉知子委員、米田清美委員、鈴木博委員
担当課職員職氏名	生涯学習課 課長：岩上勉 主幹：山崎功二 主査：川島和也 主事：笹原康友 中央公民館 館長：鈴木洋
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<p>《会議次第》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度研究テーマについて (2) 令和7年度社会教育関係団体への補助金交付について 4 その他 5 閉会 <p>《公開又は非公開の別》</p> <p>公開</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	次第 令和6年度第2回社会教育委員会議資料
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	西澤利子委員、石井亮英委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ 高田委員長あいさつ</p> <p>3 議事 (1) 令和6年度研究テーマについて</p>
高田委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を求める。 ・資料に基づき説明。
高田委員長 富田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・質問、意見はあるか。 ・ホームページがLINEと連携して見やすくなった。こういうのが欲しいと思っているものに1歩も2歩も近づいた。知りたい情報がパッと出てくるようになった。
高田委員長 富田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・詳しく見ていないが、ずいぶん変わったという印象を持っている。この会議でも意見が出ていたので、良い方向に変わって良かったと思う。 ・この会議で議論していたことは、ほかの市民も思っていたことなのだと思う。リニューアルして評判はどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルされたばかりで、現時点で特に聞いていないが、本日の会議で出た意見は担当に伝えさせていただく。
高田委員長 峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、文化連盟の理事会でQRコードをもっと活用した方が良いという意見が出た。市のホームページもリニューアルしたので、QRコードを活用して、若い人にも見てもらえるようにすると良い。 ・行政からの情報に、LINE、X(旧Twitter)、Youtubeなどが組み込まれて良くなったという印象である。若い人は情報が得やすくなった。自分のような年代は、LINEやX(旧Twitter)に馴染みがないので、高齢者、若い人、その中間層に向けた情報発信の仕方をそれぞれ整理し、共通認識されるようになると情報の伝わり方が変わってくる。この会議の中で、そのような方向性が見出せると良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の冒頭で、峯委員から発言があったように、ターゲットに即した情報発信の方法を整理していけるように資料を用意した。子ども・若者の場合、高齢者の場合、外国人などが誰でも参加できる居場所など、それぞれに対する方策を考える上での視点を資料に示している。各テーマを行ったり来たりすると、まとめていくのが難しいと思うので、順に進め

能登委員	<p>ていってはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進め方について、資料2～3ページにテーマが3つ挙げられているが、このテーマに沿って進めていくということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その方が進めやすいのではないかと思う。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1ページにある議論の視点は、資料2～3ページを議論する上での視点ということで良いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・お見込みのとおり。資料2～3ページの各テーマの前段は、資料1ページ目の議論の視点を踏まえて作成している。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の説明を踏まえ、改めてテーマの1から3に対し、具体的な対応策をまとめていきたいと思う。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ1の子ども・若者について、事前に「よしよしネット」のチラシを配布した。これは18歳までの子どもに向けたイベント情報や地域の情報を発信するものだが、高齢者と子どもが一緒にできることや、国際友好協会、自治会のことなど、子どもを核に色々なところが関わっており、子どもが関わるイベントであれば情報発信できる。子ども向けではないものは載せられないが、お花や陶芸などでも、子どもが体験できるものや、見に行くと良いものは掲載が可能なので、何かあれば連絡してほしい。また、支援拠点に地域情報としてファイルがあり、ママたちが見ることができる。タイミングによるが、会議が年3回あり、そこで配ることによって、口コミで広がっていくこともあるかもしれない。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・QRコードで情報を発信するにしても、QRコードに辿り着くまでの方法を考える必要がある。ホームページは自分から進んで見ないと辿り着けない。そうではなく、生活の中で子どもや保護者に手渡され、それを見て今度参加してみようかとつながっていけば良い。例えば、休日に子ども達が活動している場所で配ることや、学校の行事で保護者も来ているときにチラシを配るなど、子どもと保護者の両方が手にすることで、「じゃあ、見てみようか」というようになる。先日のおあしす祭りで体験や展示などがあったが、そういう場に来る人は元々興味があるので、そうした機会を捉えて配ることもできる。色々な機会を通じて、QRコードに辿り着けるような発信をしていくことは有効だと思う。
和田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を取り入れるつもりがある人と、全く関心を持たない人がいる。例えば、テレビで報道がされていても、知らないという方が増えているように思う。そういった人達にどう届けていくか、いかに届ける機会を作っていくかを考える必要がある。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも生活の中の導線がある。その導線上の一面を使って展示や体験を行うことができないか。普段の生活の途中にちょっと見てみようと思え

高田委員長	<p>るものを設置してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能かどうかは分からないが、市役所のコミュニティルームが空いている時に、サークルの体験や展示を行い、市役所に来庁した方が立ち寄れるようにしてみても良い。 ・他の用で来て、立ち寄ったら何かやっているというのは大事だと思う。初めからそれを目的に来る人は当初から興味がある人達で、そうでない人にいかに目を向けてもらうかということだと思う。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・お彼岸に華道協会に延命寺を借りて花供養を行った。檀家が400名位いるため、お参りに来るタイミングを狙ってお花の展覧会もやってみたらどうかと方丈様から提案があったので急遽実施した。花供養は扉を閉めてしまったので、入れなかったという方がいたが、展覧会を見に来てくれて、お花を習ってみたかったという方が3名入会した。高齢者ではコンピューターに馴染みがない方も多。興味があっても探し方が分からなかった方が、展覧会をきっかけに3名入会し、その方達がまた友達を誘って、最終的に5名増えたので、こうした発信方法も有効なのだと思う。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての人に情報発信することは難しい。例えば公民館利用者への情報発信の仕方、図書館利用者へ情報発信の仕方、学校に来る児童や保護者への情報発信の仕方というように、発信先を絞って拡大・拡充していく考え方にしてみてもどうか。 ・図書館を利用している高齢者が多い。おあしすの図書館ではコーヒーが飲めるようになり、コーヒーを飲みに来るだけの人もいるようである。そういった人達がQRコードやそれ以外で情報を見られるシステムができると情報が広がるのではないか。また、ワンダーランドは若い人が中心で、公共施設それぞれに世代層があるので、それぞれの特色に合わせた情報を取得できれば広がっていくのではないか。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・若者に向けた情報発信では、QRコードを活用すると入りやすい。対象が高齢者の場合は、紙媒体にして、どのように配るか考えなくてはいけない。 ・地域ごとに利用者の特色があり、ワンダーランドでいえば中曽根地域の方たちが多く。憶測だが、旭地区の方はワンダーランドがどういう施設か知らないのではないか。また、中央公民館を知らない人が結構いる。公民館はあると思っけていても、中央公民館がどこにあるか知らないというように、地域別に市の施設が認知されていないこともある。それも含めて考えていかなければならない。 ・文化連盟の文化芸術祭では、音楽を聞きに来た人にアンケートをしても、

<p>強矢委員</p>	<p>音楽が聞きたいという回答になり、映画や落語を観覧したいという回答にはならない。幅広く意見を拾い上げるのにどのような方法が良いか考えると、目で見える導線の中にある形が良いのではと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おあしすには多くのチラシが配架されており、興味があるものが見つければ取っていくが、あとは素通りされてしまう。自分の子どもが図書館でテスト勉強をするが、図書館の人からベトナムの舞台のチラシを渡されたといって持ち帰ってきた。図書館は不特定多数の方が利用するので、直接手渡されると家に持ち帰ってくることもあると思う。
<p>郭委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのイベントに参加してきたが、色々なところで宣伝活動をされているようである。日本語教室や友好協会にも挨拶に来られた。東武バスの中や子ども食堂にも貼ってあった。
<p>強矢委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を頑張っているようなので、色々な場で目につくのだろう。 ・昨年度までの会議の流れを振り返ると、情報発信の在り方を大きなテーマとして、個別の社会課題について考えていくという議論であったと捉えている。個別のテーマの部分をもう少し意識していただきながら意見を出してもらえると、昨年度の会議を踏まえたまとめ方になってくると思う。ここまでは手法の部分に議論が集中しているので、個別のテーマを意識して意見をいただけるとありがたい。
<p>高田委員長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な案の部分ということか。 ・情報発信は大きなテーマで、それを個別のテーマに落とし込んで議論するというのが昨年度の会議における意見だったと認識している。個別のテーマを考えたときに、どのような情報発信が良いかということ議論していただければと思う。
<p>渡邊委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもというテーマで、今回の選挙でどこかの政党が主張していたと思うが、全ての子ども達が英語を話せるようになればと常々思っている。私は国際友好協会がどこにあるか知らないが、例えば、おあしすの1室で、そこに行けば交流できる、会話ができるという場所があれば、多くの子ども達が外国人と会話する体験をして、会話力の向上につながると思う。国際友好協会はどこで活動しているのか。
<p>郭委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では決まった場所がなく、活動の場所はその時々で異なる。事務局は市民参加推進課が担っており、問い合わせの窓口になっている。日本語教室はおあしすで、夜は月に2回、昼は毎週やっている。おあしすが活動場所だが、外国の方がふと困ったときに相談に行ける場所がない。拠点がないので、市にもこういう場所があると良いという話はしている。
<p>渡邊委員 郭委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友好協会に参加されている方は実際にどれくらいいるのか。 ・住民として2,000人位いるが、日本語教室に来るのはその一部であ

	<p>る。昔は日本語教室が拠り所であったが、今はインターネットで日本語の勉強ができるので、わざわざ来てくれる方は減っている。そうかと思えば、実習生とかが一気に押し寄せてしまうこともあってムラがある。</p>
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> 渡邊委員が話された英語の体験について、若者のイベントが少ないという意見がこの会議でも出たことをきっかけに、小学校5年生から30歳位までを対象に、友好協会の外国語講座で英語の講座をやることにした。市の広報で募集をかけたが、応募がゼロであった。情報発信と企画の仕方を再検討して、2月に再チャレンジしたいと考えている。中学生や高校生が、保護者に勧められて応募するのではなく、自分からやってみたいと思ってもらえるような情報発信をどうしていくか悩んでいる。
郭委員	<ul style="list-style-type: none"> 教室的な対話での勉強も大事だが、日本と外国の子どもが、人間同士の触れ合いの中で、何気ない会話から接触する体験が必要と考えている。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> トライアルの段階だが、吉川団地の地域食堂で、終了後に場所を借りて、日本語教室でなく、何の言語でも良い、多文化交流ができる広場を10月からスタートしたところである。
郭委員	<ul style="list-style-type: none"> 私も参加してみたいと思う。 月初めの水曜日の18時～20時に実施している。吉川団地の福祉楽団の隣にあるみんなの広場というスペースでやっている。前は35名参加があった。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> その活動の広報はどのように実施しているか。
郭委員	<ul style="list-style-type: none"> チラシ、掲示、個人のSNS、よしよしネットで広げてもらっている。友好協会としてのSNSがないので、市民参加推進課と相談している。学校のメールについても、教育委員会と連携できていればもう少し広がったかもしれないと反省している。どこがやったら効果的かを確立して、発信したい対象に応じたメニュー表のようなものができるとう良い。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> 小学生で経験すると、中学生や高校生へとつながっていくように感じている。NPOの活動で、小学生が自分でお店を考えるキッズタウンというものが、コロナ前に小学生で参加していた子が、高校生や働き始める年齢になって、ボランティアで手伝ってくれている。小学校のときに関わった子が、楽しかった思い出があり、同窓会のように戻ってきて、ボランティアとして関わるというようにつながっていくのを目の当たりにしている。自分の生活で精一杯だったり、楽しいことがほかにあるので、初めから若者に入っていくのは難しい。小学生の活動だと、保護者も興味をもって入りやすい。そうした点で小学生というのがポイントになると思う。自分の息子はボランティア活動に興味はなかったが、キッズタウンの写真を見せたり、参加した児童の話をしたら、次回はボランティ

高田委員長	<p>アをやってみようかなという言葉が出てきた。小学生の面白さは独特のものがあり、そこに色々な人を巻き込めないかと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> LINEグループを作って参加できたり、Facebookを作って参加できるようにすると若い人には良いのでははないか。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> SNSを活用したボランティア募集はすでに実施しているが、見る人は見るし、見ない人は見ない。SNSでいくら発信しても難しいことはあると思う。今回、ロコミや過去に参加していた子に直接誘われた人がボランティアに入ってくれた。
高田委員長 石井委員	<ul style="list-style-type: none"> 石井委員、何か意見ありませんか。 前提の確認になるが、第1回の会議資料に社会教育委員会議の実績というのがあり、令和6年度が「効果的な情報発信の方法について」になるということか。
事務局 石井委員	<ul style="list-style-type: none"> そのとおりである。 このテーマで教育委員会に提言するとして、教育委員会のできることを、第1回の会議資料の10～11ページにあるような手段という理解で良いか。効果的な情報発信を提言することが目的であって、情報を伝える方法は、どういう情報を、誰に伝えたいかによって変わるので、ゴールがどこなのかを確認しながら聞いていた。第1回の会議資料の10～11ページにある全ての事業で、全ての媒体を使って情報発信をした方が良いとか、または図書館やスーパーに広報物を置くといった手段を追加することを提言するのか、どういうゴールに向かっているのかを一度確認した方がよいと思うがどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 「情報発信」という言葉に囚われてしまっているが、この会議の目的は「社会教育」である。社会教育では、これまでやってきたことが通用しなくなってきたおり、どうすれば持続していけるかが課題になっている。そこで情報発信の在り方に着目して、こういうやり方をすればこういう効果を生むのではないかということを議論してもらっている。情報発信と一口に言うと幅広になってしまうので、社会教育の枠組みの中で、「例えば、こういう課題を解決するためには、こういう方法が考えられる」というように、話しがしやすいようにテーマを絞っている。
石井委員	<ul style="list-style-type: none"> 3つの個別テーマについても、どういうことを伝えたいかによって、手法もやり方も変わってくる。高齢者といっても、高齢者に直接というやり方もあれば、子どもを介して高齢者につながるということもあるので、分けて考えるのも難しく、共通する部分もあると思う。その辺の考えがあって、このテーマ分けをしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> このテーマは事務局からというより、昨年度のこの会議において、提言

<p>高田委員長</p>	<p>のテーマを検討する中で、いまの社会課題を踏まえて、こういうことを考えなくてはいけないという意見として委員の皆様から出てきたものである。これらのテーマを解決するために、情報発信をどのようにしていくかを考えるというのが昨年度の会議でまとまった意見である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 例えば、高齢者へのアプローチの仕方が様々あるという話の中で、直接的に高齢者に届く方法を考えてしまうが、子どもを介して届けるという手法で、こういうことをやってみて有効だったということがあれば、そういう提言をするのも良いと思う。 • 前回までに色々な意見が出たが、とりとめもないものも多かったので、論点を絞って議論すれば意見がまとまっていくのではないかということでも事務局の方で資料を用意している。 • 自分としては、若者に地域活動への参加を訴えていくうえで、多くの情報を届けることができるQRコードの活用は、具体的な提案になると感じている。 • 高齢者に向けては、生活の導線の中で目につきやすい媒体を活用した方が良いと思う。難しいとは思いますが、自治会に情報発信し、自治会の中で活用してもらうことが考えられる。例えば、回覧板について、現状は学校行事の情報がほとんどで、それ以外の情報がほとんどない。回覧板は高齢者がアクセスしやすい情報ツールなので、活用の仕方を考えても良いと感じている。
<p>西澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • シニアクラブという団体に頼まれ、おじいちゃん、おばあちゃんと孫がペアで参加してお茶を学ぶ、「シニアとキッズのお茶会」という催しを公民館で開催するが、参加者が多い。お母さんが一緒なら行くという相談があったので、良いと伝えたところ、子どもが2名参加することになり、4名が参加してくれることになった。もらった資料ではチラシを4, 800枚出しているとのある。自分自身は見たことがないので、どこで配っているかは分からないが、毎月1回やっているようである。これも高齢者への発信になるのかなと思う。
<p>郭委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • とても人気で、毎回満員のようである。自分が参加した会も40人の会場で、立ち見の方がいるくらいであった。
<p>峯委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • そのチラシはどこで配られているのか。
<p>郭委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • おあしすが中心ではないか。 • 生活圏内という点で、外国の方だと公民館や図書館を使っていない方が多い。新しい日本語教室を開設するとなったときに、場所選びで色々な意見が出たが、生活圏内として出てきたのがイオンタウンのウェルシアである。ウェルシアのご厚意でドラッグストアの中の休憩コーナーを地

高田委員長 能登委員	<p>域の拠点として使わせてもらっている。生活圏内で買い物のついでに立ち寄れたら良いという考えでやっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活圏内というの1つのポイントだと思う。 個別テーマが1～3とあるが、シニアクラブの話は子ども・若者と高齢者を合わせたものだと思う。いまの話はこの具体的な対応策に当てはまらないか。
事務局 能登委員	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者をターゲットにした事業に子どもを巻き込むことで、高齢者の社会参画につながるというのは2つ目のテーマに関連するだろう。 チラシが4, 800枚ということだが、情報発信としてはチラシを配ったということが具体策になるということではないか。
高田委員長 能登委員	<ul style="list-style-type: none"> それをもう1ランクアップさせた形が具体策になってくるのだと思う。 先ほどから言っているが、中央公民館に来るのは中央公民館近辺の方、児童館に来るのは児童館近辺の方であり、仮にできるのであれば、自治会でチラシを回覧してもらう場合に、地区を絞った形でチラシ回覧してもらうというのも1つの方法であると思う。施設に馴染みがないところへ情報を出しても、上手く広がっていかない。ここだったらというような情報の出し方も1つの方法だと思う。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> 手渡しされたことで、チラシを家に持ち帰ってきたという話があった。公民館やおあしす、市役所にも様々なチラシがあるが、積極的に手に取らなければ置いてあるだけになってしまう。先ほどウェルシアの話があったが、生活の導線の中で配布することで普段は目にしない方に届く。但し、そのためには人員が必要なので、当事者が担う必要がある。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な情報発信の方法について、具体的な対応策の意見が出ているが、情報の発信元が明確じゃないので、情報が伝わらない気がしている。子どもをターゲットにした情報であれば、どこから発信するのが効果的なのかといったことを突き詰めていけば、具体的な対策につながるのではないかと思うがいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> まとめ方が難しいと言いながら、意見が途絶えないのが素晴らしいと感じている。積極的に情報を取らない方にどう情報を届けるかという話があつて、子どもがきっかけで高齢者に情報が届くことがあるという流れから、「シニアとキッズのお茶会」の話につながった。高齢者に対しては高齢者が集まる場所で情報発信することがセオリーだが、「シニアとキッズのお茶会」のように、子どもが関わる時に、よしよしネットで情報を流すことで、高齢者が集まる場所に行かない人にも、人づてに情報が届く可能性が出てくる。個別テーマを挙げているが、このような意見が出る中で、「その意見はこのテーマで使える」というまとめ方も良いと思う。

強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・よしよしネットは子どもが関わっていれば情報発信ができる。高齢者でQRコードは読めない、ネットは見ないという方でも、子どもの親が情報をキャッチして、おじいちゃんと孫に参加するように勧めるというように、ネットを見る世代がつなぎ役になるのも良いと思う。仕事が忙しくて自分自身に関わるのが難しくても、情報を教えてあげることができると思う。
郭委員	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが参加できる居場所に関して、おあしすの生活工房で日本語教室をやっているが、日本語が分からない外国の方達に、今いる施設を知っているか聞いてみると、大体の方が分かっていない。おあしすと伝えても、「市役所でしょ」という反応である。長く日本にいる人も市役所だと思っている。市役所は知っているが、おあしすは市役所の続きという認識のため、この建物はおあしすだと繰り返し伝えるようにしている。 ・公民館については、まず「公民館」という言葉を知らない。中央公民館は市のメインの会場で、色々なイベントが行われているが、施設を知らない方がほとんどなので、施設自体のアピールが必要と感じている。友好協会で市民文化祭に参加させてもらうため、どういう宣伝をされているか調べたが、ホームページで探すのに苦労した。中央公民館自体の発信はどのようにしているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民文化祭では、中央公民館をアピールするより、催しをアピールしている。市民文化祭に限らず様々なイベントで、会場のアピールという視点はなかった。外国人に届けるには、その場所がどこにあるかというところから必要ということが初めて分かった。
郭委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、吉川市に18年いるが、旭地区センターを利用したことがない。おあしすや中央公民館が一杯で、場所を探すときに旭地区のことを知った。公民館は素晴らしいところだが、利用していない人にとっては身近ではないので、LINEから公民館につながるができるのと良い。
和田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の話が出たが、長寿会の連合体である連合長寿会というのがある。月に1回は各老人会の会長が集まる会議があり、色々な情報を発信している。そこで情報を持ち帰ってもらい、それぞれの会員に連絡が行くようになっている。吉川市には高齢者が1万5,000人以上いる一方で、老人会に加入しているのは600人くらいで、コロナ前でも1,000人くらいであった。情報が渡らないグループの方にどういう方法で伝えていくかを考えなければならないが、難しい部分がある。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・推測で申し訳ないが、老人センターでのイベントの情報については、老人センターが生活圏内の方は活用しているが、離れている方は行けないと思うし、行けないと興味がなくなってしまう。それは全てに共通して

	<p>おり、中央公民館とおあしすも同様で、生活圏内に見合った情報を出していくことが有効だと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み陶芸教室で、学校から案内を出しているが、参加するのは北谷小の児童がほとんどである。中央公民館に来られる生活圏内の子しか来ない。そういう点で情報の広がりに限られるてくるのだと思う。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・よしよしネットについて、吉川市から受託してホームページの作成、SNSの更新を行っているところがあるが、小学生に関するサークル活動なども載せられるのか。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・可能である。市のホームページにもリンクして移行できるようになっている。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・さいえんすクラブという小学生向けの理科教室をやっているが、その情報もここで発信できるということか。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・可能である。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・和田委員が言ったように高齢者が10,000人いて、長寿会加入者が600人しかいないときに、よしよしネットのようなものをあると良いかもしれない。高齢者自身は見ないかもしれないが、家族から伝わることもあるだろう。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・よしよしネットの良さは「面白そう」というところから入っていき、子どもが楽しめそうだから調べて行こうとなる。高齢者向けのサイトがあれば、家族は外に出ることを促しやすくなるかもしれない。
和田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生だと子ども会があり、保護者と子どもの活動があるが、子育て世代の方々には自治会が手を出しにくい。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・役員になると大変と思うと、行かなくなってしまう。行ってしまえば楽しいのだけれど、その1歩が難しいという部分がある。 ・長寿会の加入者が600人という話があったが、最近の高齢者は若い。義理の実家のお店の前にカラオケ店があるが、朝から夜まで利用している方がたくさんいる。高齢者の方々にはそういった場所がたくさんあるのだと思う。デイサービスではないが、それに近いものになっていて、それはそれで楽しくて良いのだと思う。家から外に出ない方をどうするかが難しい。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・おあしすには市民活動サポートセンターがあって、そこでは市民活動のPRをするところがあるが、よしよしネットのようなものとは違うのか。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動サポートセンターは、よしよしネットの中で子育て支援団体として紹介している。友好協会も子育て支援団体になっている。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・おあしすを利用している人で中央公民館を知らない人は結構いて、中央公民館を利用している人はおあしすを知らない。ワンダーランドも知ら

強矢委員	<p>ない。自分の生活圏の中でしか活動できていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉推進委員を務めているが、独居高齢者がかなり吉川市にもいて、そういう人達をいかに家に籠らないようにするかが重要なテーマになっている。引き籠っていると介護も必要になり、体にも支障をきたし、益々動けなくなる。家族がいる高齢者はデイサービスに行っておくが、何もしないで家にとどまっている高齢者もかなりいる。そういう人たちが情報を受け取るために、どう情報発信するかということだと思う。
石井委員 峯委員 和田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入しない人が増えており、自治会などに参加していれば、後々つながっていくと思うが、男の人だと退職してからも自治会にも関わらないと聞く。自治会は難しいのか。美南は特に加入率が低いと聞いた。 ・美南地区の自治会加入率は30%台である。 ・自分の地域も40%に届くかどうかというところである。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や民生委員とも情報交換しているが、具体的に良い方法が見つからないのが現状で、老人会でも悩みの種になっている。たくさん対象者をどうやって仲間に入れて、孤独にならないようにするかというのが課題だが、なかなか上手くいかない現状である。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・市の広報で情報を知る人と、友人・知人からの情報で知る人というのは同じくらいいて、知人・友人から誘われると「行ってみようかな」となるのだと思う。大変だと思うが、フェイストゥフェイスで情報を発信するというのも効果がある。 ・色々な意見が出て、事務局もまとめるのが大変だと思うが、時間も時間なので次の議題に進もうと思う。事務局は次回までにとりまとめをお願いします。
事務局 高田委員長	<p>(2) 令和7年度社会教育関係団体への補助金交付について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき説明。 ・意見、質問はあるか (意見なし)
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見ないようであれば、決をとりたいので賛成の場合は挙手をお願いします。 (全員挙手) ・全員賛成として、社会教育委員会議の意見とさせていただきます。 ・議事は以上となるので、事務局へ進行を返す。
事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は2月上旬開催を予定。

5 閉会

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和6年11月6日

署名委員 西澤 利子（自署）

署名委員 石井 亮英（自署）